解　説

第21回品質工学研究発表大会を振り返って

Looking back on the 21st Quality Engineering Society Annual Meeting

伊藤　源嗣 *1　*Mototsugu Ito*
衛藤　洋仁 *2　*Hirohito Eto*
小池　昌義 *3　*Masayoshi Koike*
齊藤　潔 *4　*Kiyoshi Saito*
谷本　勲 *5　*Isao Tanimoto*
近岡　淳 *6　*Jun Chikaoka*
中井　功 *7　*Isao Nakai*
中島　建夫 *8　*Takeo Nakajima*
浜本　章 *1　*Akira Hamamoto*
矢野　宏 *9　*Hiroshi Yano*
吉野　荘平 *10　*Sohei Yoshino*
(司会)浜田　和孝 *11　*Kazutaka Hamada*

1. はじめに

浜田（司会）　2013年第21回大会について役員会としての振返りを行う。大会は6月20日，21日に「きゅりあん」で開催。発表件数は昨年よりも2件少ない93件。参加者は652名（会員489，一般83，招待80）で，昨年よりも89名減少した中での開催となった。まず，実行委員会幹事の衛藤氏から実行委員会としての企画を振り返ってもらいたい。

*1　(株)IHI
*2　いすゞ自動車(株)
*3　(独)産業技術総合研究所
*4　富士ゼロックス(株)
*5　アルプス電気(株)
*6　(有)近岡技術経営研究所
*7　(株)アサヒ技研
*8　東京電機大学
*9　応用計測研究所(株)
*10　吉野不動産鑑定事務所
*11　Hamada Quality Solution

2. 第21回大会に対する実行委員会企画の狙い

衛藤　大ホールについては昨年に引き続き4つのセッションをやることにして具体的な内容の検討を進めた。昨年20周年では20年間の成果を整理し，一つの提案として「マクロ視点での品質工学」ということをテーマとした。今年は次の20年に向けて新たなスタートの位置づけの年となるので，「マクロ視点での品質工学」をこれからどう展開していくのか実行委員会で検討した。

「マクロ視点」の定義がまだきちんとできていないというのが事実。それをきちんと議論し，学会の考えを示して，会員との議論を重ねながら「マクロ視点」をきちんと定義していこう。ただし，今年1年ではできないので，今後何年かかけてきちんと行っていこうということになった。

今年はその第一歩として何をやるかを考えたときに，全体最適だとか，社会損失の低減とか，本来の品質工学の考えを追求することが「マクロ視点」に一番近いと考えられるので，まずは品質工学の原点に立ち返ることを意識して，今年の大会テーマを「全体最適の第一歩はマクロ視点から」ということに決めた。

テーマを受けて大ホールでどう展開していくか議